

平成31年有田市議会3月定例会

議事日程（第3号）

平成31年3月18日 午前10時開議

日程 1 一般質問

14番	西口正助
8番	中谷桂三
6番	児嶋清秋
9番	辻本意典

会議に付した事件

日程 1 一般質問

14番	西口正助
8番	中谷桂三
6番	児嶋清秋
9番	辻本意典

出席議員 13名

1番	一ノ瀬	敦子	2番	池田	敦城
4番	岡田	行弘	6番	児嶋	清秋
7番	万賀	幸雄	8番	中谷	桂三
9番	辻本	意典	10番	堀川	明治
11番	生駒	三雄	12番	宇野	博治
13番	福永	広次	14番	西口	正助
15番	浜口	元司			

欠席議員 0名

議事説明員

市長	望月良男	副市長	田代利彦
教育長	田中政彦	経営管理部長	嶋田博之
経営管理部参事	喜多俊充	市民福祉部長	宮崎三穂子
経済建設部長	河野孝司	経済建設部理事	成田裕幸
水道事務所長	桑原幸男	教育次長	谷輪吉伸
消防長	山本崇	病院事務長	神保佳紀
経営企画課長	大松満至	防災安全課長	上田敏寛
総務課長	御前一晃	市民課長	馬倉三喜
生活環境課長	江川敦夫	福祉課長	松村尚彦
健康課長	山崎希恵	高齢介護課長	若松伸行
産業振興課長	鎌田利宏	有田みかん課長	大浦秀和
建設課長	脇村哲弘	地籍調査課長	栗山京三
水道課長	北野宏幸	会計管理者	森川直子
教育総務課長	伊藤正人	生涯学習課長	嶋田実明
消防本部次長	田邊隆義	医務課長	山下剛

議会事務局職員

局長	田中聡	次長	福永康一
書記	大谷真也		

午前10時00分 開議

○議長（万賀幸雄君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員数は13人であり、定足数に達しております。

これより本日の会議を開きます。

これより、日程に入ります。

日程1、一般質問を行います。

まず、14番西口正助君。

〔14番 西口正助君 登壇〕

○14番（西口正助君） おはようございます。あと1カ月余りで平成が幕を閉じます。平成最後の定例会におきまして、通告順に従いまして、一般質問を行います。

まず1点目、10連休、4月27日から5月6日まで、市民生活に及ぼす影響についてお尋ねいたします。

本年5月1日に皇太子様が新天皇に御即位され、新しい元号が施行されます。即位日等休日法の施行に伴い、本年のゴールデンウィークは4月27日から5月6日までの10連休というかつてない大型連休となります。通常のゴールデンウィークとは違ったさまざまな影響が懸念されるところです。

政府においても、国民生活に支障が生じないように、関係省庁が連携し、政府として万全を期していくとして、電気・ガス・水道等のインフラの維持、金融システムの稼働、災害どきの対応、医療においては、患者の治療の支障防止、各交通機関の混雑への対応、運輸業、小売業などにおける需要の増加への対応、雇用面への対応、保育や福祉サービスへの対応、教育、青少年への対応など、さまざまな観点からの対策に取り組むこととしています。

本市においても、市民の方々の中には、10連休の影響を心配する声や不安に感じている方が少なからずおられます。市民生活に支障が生じることのないよう、市としても万全の対策を講じる必要があると考えますが、本市における各部署の対応をお聞かせ願いたい。

次に、2点目の少子高齢化対策について質問いたします。

通告では、少子化対策と2025年問題の2点に分けておりますが、一体的なものであるもので、一括して質問いたします。

我が国の総人口は、総務省統計局の人口推計によると、2011年以降、大きく減少しています。今後も減少傾向が続き、2043年には1億人を割り込むことも予測されております。また、少子化に伴い高齢化も大きく進行し、総人口に占める65歳以上の人口は、2060年には39.9%に達し、国民の2.5人に1人が65歳以上の高齢者になると予測されています。

こうした人口減少、少子高齢化の進行に伴い、日常的な支え合い機能の衰退、コミュニティそのものの維持が困難となる集落の増加、経済活動の停滞や、年金・医療・介護などの社会保障システムにおける財源不足、現役世代の負担の増加等の問題が生じてきております。

こうした中、政府は2014年11月に、人口に歯どめをかけ、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目的とするまち・ひと・しごと創生法を制定し、自治体には、法の基本理念に基づいたまち・ひと・しごと創

生総合戦略の策定を要請いたしました。

これを受け、有田市においても、2015年10月に有田市まち・ひと・しごと創生総合戦略が策定され、期間は平成27年度から平成31年度までの5年間、政策目標及び施策を提示されていることは、皆さんも周知のことと思います。

和歌山県は、全国に先んじて少子高齢化が進んでいる地域であり、有田市も1997年以降、毎年人口が減少している状況にあります。そして、将来的にも国立社会保障、人口問題研究所や和歌山県の推計をもとにしたシミュレーションでは、人口減少は避けては通れない状況の中で、有田市では、今後の市の長期人口ビジョンとして、2060年時点で、概ね2万人程度維持することを目標に掲げ、その目標達成に向けて、出産、子育て、教育施策の充実により、未来の有田市を担う子供たちが不安なく成長できる環境を整え、そして、起業志望者のチャレンジを応援し、活発な起業活動を創出することで、若者にとって、やりがいのある仕事を生み出すこと、そして、有田みかんや水産物等の地域資源を掘り起し磨き上げ、有田市の強みを生かし、市民の誇りや町の賑わいを創出し、魅力ある有田市をつくることとされております。

そこで、これらの計画の中で掲げている目標とこれまで取り組まれた事業や施策についてお聞かせ願いたい。

以上で、壇上よりの質問を終わります。

○議長（万賀幸雄君） 嶋田経営管理部長。

○経営管理部長（嶋田博之君） まず、1点目の10連休が市民生活に及ぼす影響について、各部署の対応をとということでございますが、私のほうから一括して御答弁申し上げます。

即位日等休日法施行に伴う大型連休の対応につきましては、本市におきましても、市民生活に支障が生じることはないように対応を検討するよう、各部署に指示を出し、その状況を取りまとめているところでございます。

現時点における対応状況につきまして、御説明申し上げます。

まず、市立病院の対応でございます。

これまでの長期連休につきましては、救急医療体制にて対応してきたところでございますが、今回の10連休につきましては、診療所、他の病院や調剤薬局等の対応状況を調査した結果を踏まえ、また、定期的な予約患者への対応もあることから、外来診療について、4月30日火曜日、それから5月2日木曜日の2日間を開院しまして、通常どおりの診察日といたします。

次に、水道事務所でございますが、普段より、夜間及び休日の対応として、職員は当番制で自宅待機し、また、水道業者においては、月がわりで当番を決め、水漏れ等に対応しているところでございます。市民からの電話は全て市役所守衛室に転送となり、当番職員及び業者に連絡が入ることになっていますので、状況に応じ、必要な対応をとります。

水道施設の異常については、警備会社よりすぐに水道課長に連絡が入り、速やかに対応できる体制をとっています。緊急性のある水道の開始や休止についても、包括業務委託をしている社員が対応いたします。

消防につきましては、普段から火災・救急等に常に対応できる体制をとっているところでございます。

次に、教育委員会の関係でございますが、市民会館、図書館につきましては、通常どおり、火曜日の4月30日を休館とさせていただきますが、その他の日は、10連休中も開館いたします。文化福祉センターについても、通常どおり、水曜日の5月1日を休館とさせていただきますが、その他の日は開館してございます。

小中学校につきましては10連休となりますが、中学校の部活動等は行います。また、学校から保護者への緊急連絡については、電話や学校メールで対応いたします。

次に、市民福祉部の関係でございますが、市民課では、戸籍住民表等の発行業務は行いませんが、死亡、出生、婚姻、離婚等の各届け出については、受付のみでございますが、市役所1階入り口のところで、通常の休日同様、対応をいたします。特に、新たな元号となる5月1日には、職員1名を増員配置して対応いたします。

ごみ収集につきましては、ごみ出しカレンダーのとおり実施をいたします。

粗大ごみの受付、収集については連休中は行いませんが、し尿及び浄化槽の清掃については、清掃組合と協議を行い、緊急性がある場合は対応できる体制を整えていきます。

保育所は閉所とさせていただきますが、子育て世代活動支援センターWakuWakuの一時預かり事業で対応いたします。5月1日水曜日は定休日となりますが、それ以外の日は利用可能となります。必要であれば、枠を拡大するなど検討してまいります。

経済建設部の関係でございますが、道路陥没など、管理施設に異常が発生し、市民からの通報があった場合などは、市役所守衛室から担当職員に連絡が入る体制になっていますので、必要な対応をいたします。

経営管理部の関係でございますが、デマンドバスについては、日曜及び祝日を運休として、あらかじめ運輸局へ届け出ておりますので、これに基づいた運行となり、10連休中においては、4月27日土曜日は運行いたしますが、その他の日は運休とさせていただきます。利用者に対しましては、市からだけでなく、運行事業者である中紀バスからも事前に通知する予定でございます。

災害発生対応につきましては、気象警報発令時や震度4以上の地震発生などの場合に、職員が参集する基準をあらかじめ定めております。それに基づき速やかに参集し、対応に当たります。

なお、市役所各部署とも、市民からの通報などにより、緊急対応が必要な場合は、市役所守衛室から担当職員へ連絡が入り、必要な対応を行う体制をとり、市民生活に支障のないよう取り組んでまいります。

最後に、ただいま説明した内容につきましては、広報ありだ4月号、市ホームページ、市民メール、また各施設に提示するなど、市民に広報を周知してまいります。

以上でございます。

○議長（万賀幸雄君） 大松経営企画課長。

○経営企画課長（大松満至君） 続きまして、2点目の少子高齢化対策についての少子化対策及び2025年問題について御答弁申し上げます。

有田市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、今後、急激に進行する人口減少をできるだけ緩やかな減少にとどめるよう、長期的な視点に立って取り組むこととし、誇れるまち、アクティブなまち、モテるまちの3つの基本目標を設定してございます。

これらの目標の中で、少子化対策に関するものとしたしましては、1つ目の目標、誇れるまちでの結婚、出産、子育ての取り組みを強化する各種施策でございます。当市での計画では、2015年、推計1.47%の合計特殊出生率を2020年度に1.7%まで上昇させることを目標としておりまして、そのための基礎自治体としての環境整備として、市立病院産婦人科の再開や妊娠期から子育て期までの母子保健コーディネーターによる相談体制の構築、健康をサポートする各種教室、また、中学校卒業までの子供医療費の無料化、幼児教育の無償化、学力向上や学校教育環境の改善、図書館の充実や子育て世代活動支援センターの整備を進めることにより、安心して子育てできる環境整備に取り組んでいるところでございます。

次に、アクティブなまちの施策では、地域資源を活用した創業や起業及び販路開拓を支援するための各種補助制度の創設など、雇用の場の確保につながる対策に積極的に取り組んでいるところでございます。

また、国や県が進めます各種新制度を有田市でも享受できるよう、平成27年には有田市産業振興推進計画を策定するとともに、産業競争力強化法に基づく有田市創業支援事業計画の認定を受けたことにより、市内での会社設立時の優遇措置が受けられる体制整備も行っております。これらに加えて、1次産業従事者の所得向上につなげるため、有田みかんブランド化、販路拡大や農水産業の6次産業化への支援などにも取り組んでおります。

最後に、モテるまちの施策では、有田市への新しい人の流れをつくるため、地域資源の掘り起こし、磨き上げに力を入れ取り組んでおります。西海岸五つ星プロジェクトでは、各拠点への観光客誘客のための官民協働イベント開催や地域住民の意識の醸成、移住交流を推進するための施設整備など市民の誇りとなり、有田市の魅力を高めるための取り組みを進めているところでございます。

以上でございます。

○議長（万賀幸雄君） 14番西口正助君。

〔14番 西口正助君 登壇〕

○14番（西口正助君） 御答弁をいただきましたが、まず、1点目の連休の市民に及ぼす影響について、嶋田経営管理部長から御答弁をいただきましたが、1個ずつ、もう一回ちょっと確認していきたいと思っております。

市立病院の対応は、これまで長期の連休は救急医療体制にて対応してきたが、今回の10連休については、定期的な予約患者の対応があることから、外来診療については、4月30日火曜日、5月2日木曜日、2日間を通常どおり営業すると。

また、水道事務所については、緊急性のある水道の開始や休止業務については、包括業務委託している社員が対応すると。

教育関係については、市民会館、図書館、文化福祉センターは通常どおり開館、また、小中学校については10連休とするが、中学校等の部活動はやる。

市民福祉部関係では、出生や婚姻届などの各種諸届けについては、市役所1階入り口で、通常の休日同様対応すると。特に、新たな元号となる5月1日には、職員1名を動員配置、対応に当たる。保育所は休み。しかしながら、子育て世代活動支援センターWakuwakuの一時預かり事業で対応すると。

ごみ収集については、ごみ出しカレンダーのとおり、通常と変わらない。

経営管理部、デマンドバスについては、4月27日土曜日は運行するが、後は運休となる予定。

また、災害発生時の対応については、気象警報発令時や、震度4以上の地震が発生の場合には、職員が参集する基準を定めている。万が一起こった場合は、それに基づき速やかに参集する体制を整えていると。

これら、今申し上げた内容等については、広報ありだ4月号、市ホームページ、市民メール、そして、各施設の場所に提示するということになっていると思うんですけど、これで間違いないわな。

先ほど、壇上でも言うたけども、市民生活に支障のないよう、万全を期して体制を組んで臨んでいただきたい。これはくれぐれもお願いいたしまして、この項は終わります。

次に、少子高齢化対策について、大松課長から答弁をいただきましたが、私は少子化にこれで歯どめになっているのか、はなはだ疑問であります。各種施策の取り組みを否定するものではないが、なかなか効果として実感できないのが正直な感想や。もう一度言います。効果が実感できない。伝わってこないのが正直な感想であります。

まず、高齢化対策については、国内の総人口が減少に転じる中、団塊世代の高齢化により、高齢者人口は着実に増加していることが予測されております。また、核家族の進行により、ひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦の所帯が増加し、介護の高齢化も伴って、家庭内における介護力が低下しております。

私の家庭は、私、団塊世代71歳、妻65歳、母94歳、2人あった娘は県外と市外に嫁いでおります。これが私の置かれている家庭状況であります。本市においても、ひとり暮らし高齢者は増加傾向にあり、2010年3月に26.1%であった高齢化率が、現在では31%を超え、今後もさらに上昇していく超高齢化社会が現実のものとなっています。いわゆる、2025年問題では人口が減少し高齢化が進展することで、働き手が減少し、生産性人口、15歳から64歳の人口が減少し、生産性の低下につながるとともに、税収の減少、年金、医療、介護といった社会保障制度の維持が困難になるなど、地域生活、地域経済、地域医療、福祉の悪影響が懸念されています。

また、少子化が進む中、要支援等の高齢者の多様な生活支援のニーズに、地域全体で支えていけるような介護保険制度の改正により示された新しい介護予防、日常生活支援相互事業、在宅医療、介護連携の推進、また、認知症施策の推進、生活支援サービスの体制整備に取り組み、地域住民や関係機関など、連携して高齢者を支援する地域包括ケアシステムを構築していく必要があると思います。

地域包括ケアシステムの構築とは、医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供される仕組みであります。私は、人口減少に対しての取り組みには、大きく分けて守りの戦略と攻めの戦略があると考えます。

守りの戦略とは、人口減少を想定し、そのもとで、町の活性化につながる施策を講じていくことであり、攻めの戦略とは、人口の増加をもたらすと期待される戦略であると考えます。また、人口をふやすには、少子化対策が不可欠であると考えております。

希望する子供の数を実現できず、出生率の低下を招いている原因は、保育サービス不足

や働き方の問題、また、安定した所得の欠如などがあり、どこに重点を置いた対策を講じていくべきなのかを検討して、効果的な対策を実現していくことが必要である。人口の流出をとめ、逆に、人口流入や移住を促進するためにも必要なのが、産業の活性化であります。

新規開業率を引き上げ、働き方の改革による雇用機会を創出していくことも必要であると考えますが、これらの対策についてお聞かせ願いたい。

○議長（万賀幸雄君） 大松経営企画課長。

○経営企画課長（大松満至君） 再質問に御答弁申し上げます。

少子化対策を初めといたします地方創生に係る各種の取り組みは、短期的には、その効果が見えにくく、P D C Aサイクルによるしっかりとした効果検証を行うことが必要と考えております。統計データや住民アンケート等を活用いたしまして、傾向の変化や兆候をとらえながら、継続すべき施策、見直すべき施策を検証して進めてまいりますので、御理解のほどをお願い申し上げます。

次に、2025年問題は深刻なテーマであり、議員御指摘のとおり、社会保障制度や地域医療など、さまざまな分野での悪影響が現実になってきております。在宅福祉の充実や、介護予防を推進し、行政だけではなく、市民や地域、そして医療・介護機関、また加えて企業が、それぞれの役割を担い支え合う地域力を育成することが課題とされておりまして、関係する機関、関係者ととともに取り組みを進めているところでございます。

次に、人口減少に対する守りの戦略として、人口減少を想定した町の活性化や、攻めの戦略としての少子化対策に加えまして、雇用や産業の活性化の必要性は、議員仰せのとおりであり、有田市といたしましても、人口減少を見据えた町の再生を考えまして、空き家問題や1次産業の後継者問題への取り組みを強化しております。

空き家対策では、倒壊などの危険性がある特定空き家について、解体費用への補助制度とあわせまして、取り壊し後の固定資産税に係る特例を5年間延長する制度を設けており、多くの市民の方々がこの制度を御利用されまして、危険な老朽空き家を除去しております。また、移住者向けに空き家を活用する対策にも、今回、補助制度を計画しているところでございます。

次に、1次産業の後継者対策では、人材大手企業である株式会社リクルートを初めとする民間企業の力も活用いたしまして、新規就農者が営農可能となる支援の仕組みを計画するとともに、ミカン農家の経営育成や販路開拓など、こうした取り組みを通じて、就農人口の減少を抑制する施策を強化しております。

少子化対策でも、来年度は、これまでの子育て支援をさらに充実させてまいります。また、起業創業販路拡大への補助制度を創設しまして、新規開業や雇用創出を促すことに加えまして、ふるさと納税制度を拡充し、さらなる地域産業の振興に取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

○議長（万賀幸雄君） 14番西口正助君。

〔14番 西口正助君 登壇〕

○14番（西口正助君） 今、御答弁いただいた中で、効果検証とありましたが、まだま

だ甘いと思います。これについては、もっとスピード感を持って取り組んでもらいたい。難しいと思うんですが、既存の施策の有効性を検証し、何が有田市にとって有効な対策であるかを常に考えて取り組んでもらいたい。

これは私事になるが、私の娘は県外に嫁いでおります。その町の取り組みとして、保健師等が妊婦の家庭を訪問し、不安や悩みの相談に応じてくれるとともに、子育てに関する情報なども届けてくれているそうです。そうした不安な時期に訪問していただいて、大変心強かったと娘から聞いております。そうしたことから、先日、第2子が誕生しており、2人目の孫ができました。

こういったことを踏まえて、子育てについての不安を軽減させたり不安を解消させることが、安心して子供を産み、育てやすい環境づくりにつながるとは思います。有田市における取り組みについて、お答え願いたい。

○議長（万賀幸雄君） 松村福祉課長。

○福祉課長（松村尚彦君） それでは、少子高齢化対策につきまして御答弁申し上げます。

妊娠期から子育て期まで、切れ目のない支援を行うことで、子育てについての不安感を解消し、産み育てやすい環境をつくることが重要であると考えております。そのため、妊娠期から保健師等の専門職による妊産婦等のさまざまな悩みへの相談対応、また、家庭訪問、妊婦健康診査への助成、パパママ教室を通じた出産、育児への支援を実施しております。

出産後におきましては、助産師による相談援助や産後概ね1カ月以内の家庭訪問、また、産婦の心身ケアや育児サポートする産後ケア事業等も市立病院で実施をしております。また、生後4カ月の乳児のいる家庭を保健師と地域の母子保健推進員が訪問をし、母子の健康状態など、養育環境等の把握をし、子育て支援に関する情報提供や関係機関につなぐ取り組みを行い、未就学児を持つ子育て世代が地域からの孤立を防ぐために、各地域の家庭訪問支援員が訪問をし、育児に関する不安や悩みの相談等にも応じております。

また、家庭で子育て中の皆さん方には、育児不安等についての相談や情報交換ができる場として、地域子育て世代活動支援センターや児童館を利用いただいております。また、各地区公民館におきましては育児サークルを実施するなど、気軽に相談できる環境も整えております。

また、地域で子育てを支えるための取り組みとしまして、行政パートナーであるわいがや娘の会と協働した取り組みを行ってございまして、これまでも、ママカフェの開催やこの2月には、輝く有田市未来講演会を実施してきたところであります。

来年度からの新しい取り組みとしまして、スマートフォンへ、子供の月齢に合った必要な育児情報や予防接種、健診の案内を発信したり、母親の健康記録や子供の成長記録を入力したりできる子育てアプリを導入し、各家庭に合った子育て支援を予定しているところであります。

またファミリーサポートセンター事業にも取り組む予定にございまして、これは、子育てをする上で、支援を必要とする方と支援できる方が事前に登録した上で、登録者同士を結びつけるというものであります。この事業によって、例えば、夜間に子供を預かってもらいたいときなど、相応の利用料を負担することでサポートを受けることが可能となり

ます。このように、市民同士で助け合う仕組みをつくってまいります。今後も引き続き、子育てを地域全体で支えていく環境づくりに取り組んでまいります。

また、10月からは幼児教育・保育の無償化を実施いたしますので、3歳児以上の保育料が無償となるなど、経済的な負担軽減も行ってまいります。

以上でございます。

○議長（万賀幸雄君） 14番西口正助君。

〔14番 西口正助君 登壇〕

○14番（西口正助君） 今、松村課長から御答弁をいただきましたが、さまざまな取り組みがなされていると、きめ細かに説明をいただきましたが、今取り組んでいる取り組みが、もっと効果が出るようお願いしたいと期待しておきます。この少子化や高齢化の問題はなかなか一つの市では難しい。国や県が主導して対策をすることが必要だと思います。しかしながら、子育て世代や高齢化を取り巻く環境は地域によってさまざまな差があります。国・県に示されたことを追従してやっていくのではなく、我が有田市、肌にあった施策をみんなで考え、必ず有田市の発展をお願いしたい。

そこで、時間も通告時間よりもちょっと余っておりますので、くしくもきょうの、新聞に、ある市で、部下による暴言問題で辞職された市長さんが、子育て支援、その実績を評価され再選されたと。どういった施策をとってきたかと言いますと、第2子以降の保育料の無償化、中学校卒業までの医療無償化といった子育て支援を導入し、6年以上連続して、その土地の人口増に繋げた、その実績が買われて再選になったと。その争点は、子育て支援、少子化対策を重視する施策であったと。やっぱり、こういうことを全国に先駆けて考えてやった結果だと。これは余談ですけども、だと思います。

そしてまた、くしくも、これは、一面に高齢者のごみ出し支援と。国内の全家庭のうち約5,000万所帯、65歳の高齢者所帯は4分の1を占め、その半分近くは高齢者の単身者とされる。生活意欲や筋力の低下、認知症などに伴って、自分でごみ出しができなくなり、ごみがたまると、ごみ屋敷が社会問題となっています。

くしくも、先ほど壇上、また、この場で申し上げたように、高齢化が進んでおり、問題は一層全国的に深刻となっております。そうしたことで、地方創生の趣旨を十分踏まえ、みんなで協力しながら、活力ある有田市をつくっていただきたいと思います。

そして、最後に、これは十分お願いしておきたいと、苦言を呈しておきます。

国は、平成37年、2025年問題をめどに、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り、住みなれた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域の包括的な支援、サービス体系、地域包括ケアシステムの構築を推進するという事になっておりますが、この問題は、各担当、各セクションにより、例えば福祉部、病院、消防等、そういうみんなが相談し英知を出し合って、各部署の、防災の問題もそう、つくっていくもんであると、私は思っております。

この場で、あえて申しませんが、やっぱり各部署が限定して何でも取り組んでいかんと、この間のように、議案が出てきても、説明が足りない等々の問題でいろんなことが起こっていくんよ。私は、今回、この問題にしたのは、今のことがあったんで、質問だったんですけども、やっぱりほんまに有田市をピシッと、少子化問題、高齢化問題を解決してい

なければ、有田市の将来はないという思いで取り組んでいただきたい。

以上で質問を終わります。

○議長（万賀幸雄君） これにて14番西口正助君の一般質問は終わりました。

次に、8番中谷桂三君。

〔8番 中谷桂三君 登壇〕

○8番（中谷桂三君） 皆様、改めましておはようございます。私たちの政策集団である会派「至誠会」は、至る、到着するとか届く等の「至」とごんべんに成ると書いて「誠」の漢字を「せい」と呼び、至誠会です。ちなみに「至誠」とは、何かのため、よかれしと純粋に思う心、真心の意味で、会派の目的は、活力ある有田市の実現と市民生活の向上に努めることです。また、私は、市議会議員の本来の使命は、市当局職員と同じで、有田市民の生命と財産を守ることと思っています。

私が、有田市議会議員を目指して立候補したときの17年前の初心に戻り、有田市民のために、議員として、会派として市民に喜んでいただけるような、「有田市で生まれてよかった」、「有田市で育ってよかった」、「有田市で住んでいてよかった」と言っていただけの、活力ある有田市の実現を目指しています。

私が至誠会の代表で、幹事長が、本日最後に一般質問をする辻本意典氏で、メンバーは、私の次に一般質問を予定している児嶋清秋副議長です。もう一人は万賀議長です。至誠会メンバー4名のうち3名が今定例会で一般質問をします。なぜならば、少しでも有田市活性化を切に望んでいるからです。今後ともよろしくお願いいたします。

それでは、議長のお許しを得まして、通告順に従い、壇上より一般質問をさせていただきます。

まず、1点目の有田みかん海道展望台周辺の環境整備についてお尋ねいたします。

ことしの2月10日日曜日に開催されました「2019有田みかん海道マラソン」がスムーズに実施できるように、前もって、1月20日日曜日に、私が入会している花の会主催で、有田みかん海道沿いの道路の落ち葉の回収等のコース整備やコースにはみ出している木々の剪定、湯浅湾を一望できるように大木の伐採を、ボランティアの方を含め実施しました。

私は、毎年参加していますし、ことしも参加させていただきました。市議会議員としては初めて、福永議員、池田議員、一ノ瀬議員が参加していただきました。その節は本当にお疲れさまで、御苦労さまでした。

約50名近い人数が集まったため、毎年だと十数名の参加者のため、朝の8時から夕方遅くまでかかる場所でしたが、その日は午前中に予定していた作業を終了することができました。その作業中に、ボランティアの方から、トイレがないのは不便だという話になりました。自家用車で来られた方は、近辺のコンビニ等で用を済ますことが可能ですが、歩いて来られた方には、トイレがないのが一番困るのです。

実は、この件に関して、平成30年3月定例会で、矢櫃からの水道配管が埋設され、その水道水を利用した有田みかん海道沿いへのトイレ設置を一般質問で提言しました。そのときの市当局は、みかん海道の展望施設は平成22年度に、展望公園整備として、みかん海道より湯浅湾側に東屋、ベンチ、フェンスの設置を行い、道を挟み、スロープを上がり詰めたところに展望台を設置してございます。

現在、有田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、みかん海道を磨き上げるべき一つの拠点として取り組んでおり、昨年には、みかん海道沿いにレストラン及びカフェが開業するなど、沿線の土地利用も広がってきております。

市としては、みかん海道をPRしていく中で、東屋展望台の利用者数やトイレ利用に関する調査を行い、その必要性について検討してまいりますと答弁されました。ちょうど、あれから1年が経過しました。その検討結果についての答弁をお願いいたします。

続いて、2点目の5月連休10日間対応については、皆様も御存じのとおり、ことしは5月1日をもって新元号となり、皇太子殿下が天皇陛下となられます。そのため、5月1日がことし限りの祝日に決定しました。祝日に挟まれた4月30日と5月2日が国民の休日になり、4月27日土曜日から、子供の日の振りかえ休日である5月6日月曜日までの10日間は10連休となります。

そうしたときに、会社員や公務員は10連休で出勤をしなくてもよいのですが、困るのは、小中学生の子供や乳幼児を抱えた家庭にとっては、大変忙しい10連休となります。つきましては、せめてその期間については、夏休みなどに対応している臨時の学童保育や乳幼児保育を何日か預かっていただけないか提言をします。なぜならば、多くの方たちから、前もって私に何かと行政で見てもらえないかとの問い合わせがあるからです。ぜひ、前向きな答弁をお願いいたします。

続いて、3点目の有田市に関する名称変更について質問します。

私は、平成14年7月の補欠選挙で初当選させていただき、現在5期目、17年目を迎えました。その間、議員派遣や常任委員会の視察等で和歌山県外に行ったときに、よく間違われるのは、有田市から来たと言っても、佐賀県の陶器で有名な有田ですかと言われる。また、箕島の名前を出すと、箕島という島に住んでいるのですかと言われる。

私と近い年齢の方だと、昭和54年（1979年）に大会史上3度目の春夏連覇の偉業を達成した箕島高校の硬式野球部が有名ですので、理解していただけるときもあります。

また、箕島の地名は、平成18年3月に発行された市制50周年「私たちの有田市」の中に明記されているように、明治21年（1887年）4月、市町村制の施行で宮崎村、保田村、糸我村、宮原村、椒村の5カ村が生まれました。

宮崎村は、明治34年（1901年）、有田郡内で最初の町制を敷き、箕島町と改めました。よって、箕島の呼び名もいろんな経緯があり捨て難いのですが、私は、あえて有田市の今後のますますの発展を願い、有田市に関する名称変更について提言します。

なお、ちなみに近隣の有田川町は、皆様も御存じのとおり、平成18年1月1日に、吉備町、金屋町、清水町が合併してなりました。

その関連として、昭和59年（1984年）、海南湯浅道路、海南インターチェンジから吉備インターチェンジが開通しました。そして、有田川町となり、約2年後の平成19年（2007年）11月3日に、吉備インターチェンジが有田インターチェンジに、吉備南インターチェンジが有田南インターチェンジに改称されました。

つきましては、第3点目の有田市に関する名称変更の1項目めのJR箕島駅を有田中央駅についてですが、現在のJR駅名は、有田市では、初島駅、箕島駅、紀伊宮原駅となっています。初島駅、紀伊宮原駅はそのままでよいのですが、箕島駅は、利用している地域

は、港、箕島、宮崎、保田、小豆島、新堂、野、山地の中央地区にまたがっています。だから、箕島駅を有田中央駅に名称変更してはと考へ、提言いたします。この提言に対しての答弁をお願いいたします。

続きまして、2項目めの有田みかんマスコットあり太くんを変更しては、については、事前に、有田市役所のインターネット検索で有田みかんマスコットあり太くんについて調査しましたが、参考になるデータを確認できませんでした。私の知人、友人、他の方にもお聞きしましたが、誰も答えることができませんでした。

そこで、私が有田市議会議員として、先ほども述べましたとおり、有田市という地名を正しく理解していただくためにも、紛らわしい有田みかんマスコットあり太くんの名称を「ありだくん」に変更したほうがよいと判断しました。そのほうが誤解されないのではと考へました。この提言に対しての答弁と、もしも、有田みかんマスコットあり太くんについての情報がわかれば、あわせてお願いいたします。

続いて、4点目の漁業振興について質問をします。

最近、私の友人である漁業従事者から、魚のとれる量——漁獲量の落ち込みや、とれた魚の値段が安く、生活していけないとの声をよくお聞きします。また、年末は、漁に行くよりも有田みかん収穫の手伝いのほうの収入が多いため、そちらを優先しているとの話をお聞きします。また、漁業従事者が高齢化の傾向にあることから、後継者の確保、育成が大きな課題となっています。

有田市の漁業振興については、真剣に考へないと漁業従事者の減少が加速する大変厳しい状況です。つきましては、有田市の漁業の1項目め、漁獲量と漁獲高の推移を含む現状と今後について答弁をお願いいたします。

また、実は、私はこの件に関連した質問を平成24年9月定例会で一般質問しています。そのときは、水産業の振興について個人行政視察で秋田県男鹿市の実態を勉強してきた内容を具体的に示し、有田市でも生かせないかと提言しました。そのときは、私の提言に対して、「一つ、農林・漁業後継者等奨励条例の制定と新規就業交付制度の導入については、条例制定の背景や条例の内容とその効果について十分勉強させていただき検討させていただきます。2つ目、漁獲高日本一を誇るタチウオらにタグをつける等、市場での差別化を推進してはとの提言に対しては、これまでも漁業関係者とタグをつけることを協議していますが、有田市のように仲買人が水揚げされた魚を全て購入する形態において、タグづけによる差別化が可能かどうか、どのような方法によりタグづけできるのかなど、引き続き今後も検討していきたいと思っています。3つ目、販売促進策として和歌山県有田市産地協議会を活用する件については、箕島漁港内に試験的に直売施設を開設して、消費及び販路拡大を図っているところです」との答弁をいただいています。

その後、6年半が経過しました。進捗状況について答弁をあわせてお願いいたします。

以上で壇上よりの質問を終わります。

○議長（万賀幸雄君） 鎌田産業振興課長。

○産業振興課長（鎌田利宏君） 1点目の有田みかん海道展望台周辺の環境整備について御答弁申し上げます。

有田みかん海道から望む景観を活用した取り組みといたしましては、これまで、東屋や

展望施設の整備、また、有田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、有田みかん海道を磨き上げるべき一つの拠点として取り組んできてございます。

有田みかん海道沿いに新たにレストランやカフェが開業したことにより、みかん海道へ訪れる方々もふえてきていると感じているところです。

また、トイレ利用に関する調査では、徒歩での利用者やボランティアで長時間活動される方々のニーズとして、トイレの要望があることは理解してございます。引き続きニーズ調査を継続しながら、トイレ設置に係る課題でもある施設の維持管理なども含め、観光振興面での有田みかん海道へのトイレの設置の必要性について検討を続けるとともに、関連する取り組みや箕島漁港産直施設の進捗なども鑑み、いろいろな角度・視点から慎重に検討してまいります。

以上でございます。

○議長（万賀幸雄君） 松村福祉課長。

○福祉課長（松村尚彦君） 続きまして、2点目の5月連休対応について御答弁申し上げます。

市民の方からの問い合わせも幾つかいただいております。これまで保育所についての問い合わせは4件、学童保育についての問い合わせは1件ございました。市内幼稚園の状況を確認したところ、ぶっとく幼稚園、初島幼稚園ともゴールデンウィーク中は閉園予定とのことであります。保育所につきましても、現時点で閉所を予定しております。

しかし、未就学児の一時預かり保育については、子育て世代活動センターW a k u W a k uで行っております。5月1日の水曜日は休館日となりますが、それ以外の日は土日も含めた利用が可能となっております。

学童保育につきましても、それほど大きなニーズがあるとは考えておりませんので、現時点では開設を予定しておりませんが、今後の緊急事態に備え、学童保育受託事業者との連携に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（万賀幸雄君） 大松経営企画課長。

○経営企画課長（大松満至君） 続きまして、3点目の有田市に関する名称の変更についての1項目め、JR箕島駅を有田中央駅に、について御答弁申し上げます。

駅の名前はJRが決定するものでありまして、変更につきましても同様にJRが決定するものでございます。今回、議員のほうから御提言のあった地域から駅名変更を求めるためには、変更を希望する団体が要望をJR和歌山支社のほうに出しまして、それを受けて、JR和歌山支社から西日本旅客鉄道株式会社への上申に基づきまして、社内のほうで検討されることとなります。

駅名での変更では、これまでも市町村合併などにより現状に駅の名称がそぐわないため変更した事例や、また自治体の知名度アップ、それから、観光戦略として駅名を自治体名と統一することを検討している自治体もございます。

一方で、駅名は長年地域や利用者がなれ親しんできたこともありまして、変更には賛否両論、さまざまな意見があることや、路線図それから運賃表、放送や案内ディスプレイなどの更新に加えまして自動改札機、発券機などの改修に必要な多額の費用を、駅名を変更

希望する団体が負担する必要がございます。

したがって、現時点で、有田市が駅名の変更を自治体の施策として取り組むことは難しいと考えますが、住民多数や各種団体の合意形成が図られ、陳情や請願など地域からの強い要望がありましたら、こうした費用に見合う経済効果が見込まれるかなど検証の上、検討することが必要と考えます。

以上です。

○議長（万賀幸雄君） 大浦有田みかん課長。

○有田みかん課長（大浦秀和君） 3点目、有田市に関する名称変更についての2項目め、有田みかんマスコットあり太くんを変更してはについて御答弁申し上げます。

保田橋北に有田みかんマスコットキャラクターの壁画が描かれたのは平成5年11月でございます。同年にキャラクター愛称名の公募が行われ、県内各地から256通の応募が寄せられました。平成6年2月に審査が行われ、応募作の中から市内中学生の案が採用され、「あり太くん」と決定いたしました。

太陽をいっぱい浴びた有田みかんをイメージして名づけられており、あり太くんの「太」は太陽の「太」と同じ漢字を使っております。今まで親しまれてきた名前でもあり、公募して決定したのもでございますので、今後もあり太くんと応募していただいた命名者の思いを強く受けとめ、有田みかんのあり太くんとしてPRに努めていきたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（万賀幸雄君） 鎌田産業振興課長。

○産業振興課長（鎌田利宏君） 4点目の漁業振興の現状と今後について御答弁申し上げます。

1項目めの漁獲量と漁獲高の推移と今後についてでございますが、農林水産省海面漁業生産統計調査の最新データからの指標から、平成24年度は、漁獲量3,774トン、漁獲高約20億9,600万円から、平成28年度においては、漁獲量3,828トン、漁獲高約21億3,800万円とほぼ横ばい状態でございますが、水産資源の減少等、漁業環境は過去と比較すると厳しい状況でございます。

市としましては、水産資源の減少対策として、水産資源の回復を図るための種苗の放流支援の継続、また漁場環境保全のため、有田川河口沖合の海底の堆積物を除去する水域環境保全事業を実施し、操業中における堆積物による漁網等の損傷の軽減等を図ってございます。

今後においても、現在行っております各種事業の継続に加え漁村地域の維持、産業としての生産性の向上と所得の増大につながる取り組みなどを支援しながら、水産業の発展に尽力してまいりたいと考えてございます。

次に、平成24年9月定例会での答弁についての進捗状況でございますが、1つ目の漁業後継者や新規就業者に対する支援についてでございます。

有田市漁業後継者対策会議で検討を行い、平成14年から既の実施しておりました小型船舶操縦士免許や海上特殊無線免許の取得に係る補助に追加して、新たに平成27年から、民間賃貸住宅に居住する漁業新規就業者に対し一部家賃補助を実施してございます。

2つ目のタチウオへのタグづけについてでございますが、当時、漁業関係者と協議した結果、タチウオの魚形状の問題や作業的な課題から、タグづけが非常に困難であることが確認されており、タグづけによる差別化を見送ってございます。

3つ目の直売施設の開設については、平成24年9月から平成31年1月までの約6年半余りの期間で、朝市を試験的に実施してきました。また、並行して、直売施設の開設についての協議を重ねてきており、現在、有田箕島漁業協同組合が事業を実施主体となり、直売施設の設計が進められております。

以上でございます。

○議長（万賀幸雄君） 8番中谷桂三君。

〔8番 中谷桂三君 登壇〕

○8番（中谷桂三君） まず、1点目、有田みかん海道展望台周辺の環境整備、トイレ設置については、トイレ利用に関する調査では、徒歩での利用者やボランティアで長時間活動される方のニーズとして、トイレの要望があることは理解している。引き続きニーズ調査を継続しながら、いろいろな角度・視点から慎重に検討していくと答弁をいただきました。

私は、有田みかん海道に水道施設が布設されたときから、ぜひトイレは必要と考えています。今後も調査を継続されて、早期にトイレ設置ができることを願いつつ、有田みかん海道展望台周辺の環境整備、トイレ設置については了承いたします。

続いて、2点目、5月連休10日間対応、学童及び乳幼児対策については、学童保育については現時点で閉所を予定していて、今後の緊急事態に備え、学童保育受託事業者との連携に努めてまいります。幼稚園・保育所は現時点では閉所・閉園を予定しています。しかしながら、未就学児の一時預かり保育については、子育て世代活動支援センター「W a k u W a k u」で行っています。5月1日は休館日ですので休館しますが、それ以外は利用可能となっておりますと答弁をいただきました。

有田市民の中で真剣に悩んでいる方の思いを優先した適切な対応をしていただけることを期待して、5月連休10日間対応、学童及び乳幼児対策については了承いたします。

続いて、3点目、有田市に関する名称変更の1項目め、JR箕島駅を有田中央駅に、については、駅名の変更手順や駅名変更による賛否両論、さまざまな意見等あること、変更に伴い多額の費用がかかる、現時点での有田市が自治体の施策として取り組むことは難しい。行政以外の団体等や地域からの要望により検討すべきとの答弁をいただきました。

この答弁を踏まえ、JR箕島駅変更については、今後は有田商工会議所の団体等にお願いしていきたいと考えています。

また、今回の一般質問をするに当たり、私の友人から、駅の名称変更については有田市にふさわしい「有田みかん駅」はどうかと提案されました。私が思いつかなかったユニークかつ、有田市に一番ふさわしい駅名だと思いました。今後の課題として参考にさせていただきます。

有田市に関する名称変更の1項目め、JR箕島駅を有田中央駅に、については了承します。

続きまして2項目め、有田みかんマスコットあり太くんを変更しては、については、平

成6年2月に公募により、有田みかんマスコットの愛称として、応募作の中から市内中学生の案「あり太くん」が採用され決定したとの答弁をいただきました。

私は、今回の一般質問で、初めて「あり太くん」についての詳細を知りました。有田市のホームページに、こうしたことについてはアップして、有田市民はもちろんのこと市外の人にも理解していただくためには、早急に追加アップされることをお願いいたします。

なぜならば、今回の一般質問の前に、壇上でも述べたとおり、有田市役所のホームページで「あり太くん」についての検索をしましたが、何も出てきませんでした。事前に、こうした経緯で決まっていれば、私は、今回の一般質問にはこの項目を入れませんでした。なぜならば、採用された発案者に対して大変失礼な質問項目となってしまったからです。

一日も早く、有田市役所のホームページに「あり太くん」について一般公募により決定された名称であることや、採用経緯を早急にアップされることを切望して、2項目め、有田みかんマスコットあり太くんを変更してはについては了承いたしました。

続いて4点目、漁業振興の1項目め、現状と今後については、漁獲量と漁獲高の推移を含む現状水産資源の減少等、漁業環境は過去と比較すると厳しい状況です。今後についても見通せない厳しい状況である、また、平成24年9月定例会以降の進捗状況を答弁いただきました。つきましては、こうした厳しい環境ではありますが、2項目め、後継者育成についての具体的な施策を予定していれば教えてください。

○議長（万賀幸雄君） 鎌田産業振興課長。

○産業振興課長（鎌田利宏君） 再質問、漁業振興についての2項目めの後継者育成施策について御答弁申し上げます。

有田市漁業後継者対策事業として、漁業後継者育成の観点から、地域の子供たちに水産業の魅力について学ぶ水産教室の実施や水産業の発展と漁村地域の活性化を図るため、漁業後継者及び漁業新規就業者に対して、有田市漁業後継者支援事業で資格取得に対する補助及び、平成27年度から新規就業者に対する家賃補助も実施してございます。

以上でございます。

○議長（万賀幸雄君） 8番中谷桂三君。

〔8番 中谷桂三君 登壇〕

○8番（中谷桂三君） ただいま漁業振興についての後継者育成の具体的な施策について、現在実施されている後継者育成施策を答弁いただきました。有田市を含め、全国的に漁業の後継者育成が大きな課題となっている現状において、なかなか一朝一夕に解決する後継者育成施策がないのが現実です。

有田市独自で解決する施策を真剣に考えないと、有田市の漁業衰退につながる危機感があります。私も真剣に、今後とも独自の後継者育成施策がないか、全国の実施されている施策を検索し続けます。当局も真剣に他市の後継者育成施策を参考に、有田市で実施できないか検討を続けてほしいと考えます。

私は、市議会議員をしながら、休耕田を防止するため、約1町の他人の水田を預かり、無農薬有機肥料栽培で米、古代米、各種野菜を栽培しています。実際、もうけなしで、ボランティア状態で実践しています。また、御縁にちなんで、さい銭などで人気の5円玉ですが、描かれているデザインに意外な意味があることを皆様は御存じですか。稲穂と水、

穴の周囲には歯車、それぞれ農業と水産業、工業のシンボルです。最近、余り5円玉を見なくなりましたが、5円玉のデザインの意味を理解し、近い将来、漁業が農業とともに、有田市で後継者問題がクリアされ、第1次産業のメインとして、かつての輝かしい産業として復活されることを期待して、漁業振興についての2項目め、後継者育成については了承いたします。

以上で一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（万賀幸雄君） これにて、8番中谷桂三君の一般質問は終わりました。

次に、6番児嶋清秋君。

〔6番 児嶋清秋君 登壇〕

○6番（児嶋清秋君） 議長のお許しをいただきましたので、通告順に従いまして、箕島漁港荷さばき施設建設事業及び箕島漁港産直市場建設プロジェクトについてを壇上より一般質問いたします。

このプロジェクトは、漁業環境の改善と衛生管理型の荷さばき施設を整備することにより、鮮度、魚価の向上を目指し、販路の維持拡大、競争力の強化を図ることを目的としています。既存の荷さばき施設、いわゆる打瀬の入札場と、現在、辰ヶ浜駐在所付近にある約1,000メートル離れた船曳きの荷さばき施設を箕島漁港内に集約し、水産業の競争力と効率化が図られ、衛生的な施設に生まれ変わるものと期待したいと思っております。

また、本年1月をもって、とれピチ朝市が終了しておりますが、新たに産直市場を整備し、地場産業の振興、新たな雇用、地域特産物の販売により、地域の活性化を促進し、交流人口の増加を目指すものと推察いたします。

そこで伺います。荷さばき施設及び産直市場、各施設の規模、概算費用及び事業主体をお聞かせください。加えて、各事業の着工時期と完成予定とお伺いします。

続いて、平成31年度当初予算についてを質問いたします。

平成31年度当初予算の主要施策の中の誇れるまち有田市づくりの母子保健推進事業の2,361万円、ファミリーサポートセンター事業の543万円、児童発達支援センター建設補助金の1,500万円、中学生海外派遣研修事業の673万円、小学校トイレ洋式化の1,591万円などの新規事業や拡充、またビックスマイルプロジェクト事業の2億1,181万円、市民体育館空調整備事業の2,344万円、モテるまち有田市づくりの移住定住促進策として、移住推進空き家活用事業費補助金の400万円、移住支援事業助成金の200万円、移住交流促進事業602万円等々の新規・既存の事業が盛りだくさんで計上されています。

そこで伺います。

1点目として、移住推進空き家活用事業費補助金400万円が、市内のどの地区を指すのかお伺いします。

2点目として、移住支援事業助成金が200万円が新規事業として計上されています。さらに、UIJターン、就職を促進するため定額100万円を支給し、東京23区からの移住を支援するとありますが、そのめどがあるのかお伺いいたします。

3点目の移住交流促進事業602万円、この事業は、移住交流拠点施設くらしちやる矢櫃であります。2年目に入っていると思っております。成果のほどをお伺いしたいと思います。

以上で、壇上からの質問を終わります。

○議長（万賀幸雄君） 鎌田産業振興課長。

○産業振興課長（鎌田利宏君） 1点目の箕島漁港荷さばき施設建設事業及び箕島漁港産直市場建設プロジェクトの事業内容及び完成予定日について御答弁申し上げます。

荷さばき施設及び産直施設の両事業につきましては、有田箕島漁業協同組合が事業実施主体となっております。

次に、各施設の規模でございますが、底曳きの荷さばき施設は、現状の場所に少し面積を縮小した1,800平米の施設を、船引きの荷さばき施設は現状の場所から、底引き荷さばき施設の西側に移設し、575平米の施設を建設していく計画となっております。

産直施設につきましては、両荷さばき施設の間の空間に最大で1,500平米の規模の施設を検討されております。

また、概算費用でございますが、底引き、船曳きの両荷さばき施設合わせての概算総事業費は約10億円、産直施設の概算総事業費は約4億円で、国からの支援として、荷さばき施設は漁業経営構造改善事業費補助金を、産直施設は農山漁村振興交付金をそれぞれ見込んでございます。

各事業の着工時期と完成予定日につきましては、産直施設は2019年9月着工の2020年3月完成予定で、荷さばき施設につきましては、2020年4月着工の2021年3月完成予定で進められております。

以上でございます。

○議長（万賀幸雄君） 大松経営企画課長。

○経営企画課長（大松満至君） 続きまして、2点目の平成31年度当初予算について、モテるまち有田市づくりについて御答弁申し上げます。

平成27年度に策定いたしました有田市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、誇れるまち、アクティブなまち、モテるまちの3つの基本目標を掲げ、まち・ひと・しごとが好循環でつながるまちの実現を目指し、結婚・出産・子育て支援、質の高い教育環境の実現、安全・安心で豊かな暮らし、地域産業の発展維持、地域資源の掘り起こし、磨き上げ、移住推進などの各種施策について取り組みを進めてございます。

御質問いただきました、移住推進空き家活用事業費補助金は、国の空き家対策総合支援事業補助金を活用し、移住者の空き家改修費用への補助制度を新たに創設しようとするもので、わかやま空き家バンクに登録をした市内全地区の空き家を対象と考えております。

2点目の移住支援事業助成金は、国の地方創生推進交付金を活用し、和歌山県と一体となって取り組む事業でありまして、U I Jターン希望者と県内企業をマッチングし、就職や起業のため市内へ移住する場合の支援制度を新たに構築することで、東京圏からのU I Jターンを促進し、中小企業の人材不足解消や地域活性化に必要な人材の確保を目指すことを目的としてございます。

この事業では、県内企業が参画しております再就職支援サイトを全国マッチングサイトにリンクさせることで、情報発信力を高め、就職希望者とのマッチング強化を図ることなどに取り組みまして、初年度は、和歌山県全体で移住就業者数52名、移住起業者数4名を目標としてございます。このうち有田市での目標は2件でございますが、県と協力しながら目標達成に向けて努力してまいります。

3点目の移住交流拠点施設くらしちやる矢櫃につきましては、地域住民による協議会が施設の運用を進めておりまして、地域の特性を生かした釣りやウォーキングなどの体験メニューの提供、また、箕島高校生とのコラボイベント等を開催し、施設や地域のPRに努めているところでございます。

こうした取り組みなどによりまして、平成29年7月開設以降の利用状況ですが、初年度は9カ月間で延べ利用数が143名から、平成30年度は2月までの11カ月間で429名と交流人口の増加につながっております。

今後の課題としましては、こうした利用者が移住定住につながるよう空き家情報の提供や移住支援などの受け入れ体制の整備を進めてまいります。

以上です。

○議長（万賀幸雄君） 6番児嶋清秋君。

〔6番 児嶋清秋君 登壇〕

○6番（児嶋清秋君） ただいま鎌田課長から、各荷さばき施設の規模、概算費用及び事業主体を、また、各事業の着工時期、完成予定を御答弁いただきました。

荷さばき施設は、風雨にさらされることによる経年劣化が著しいための建てかえ、また、船曳きの荷さばき場の箕島漁港内への移設による新設、両施設の総事業費は概算で10億円、産直市場の施設の概算費用4億円を合わせて合計14億円になり、いずれも事業主体は有田箕島漁業協同組合であるとのことですが、これは、容易に推察はできますが、あえてお尋ねをさせていただきました。

そこで、産直市場ではどのような物品を販売するのかをお伺いします。加えて、この産直市場は4億円の事業費で本年9月に着工され、来年3月に完成予定とのことですが、荷さばき施設は来年4月着工の2年後の3月に完成予定とのこと。漁港内にある恵比須神社からの箕島漁業協同組合事務所の近くまでの間の立ち木が、もう大きな雑木林になっております。枝が県道のほうへはみ出していまして、車の通行とか、そういうのには危険を感じます。この雑木の伐採や漁港内全体の整備や美化などの計画の予定はあるのかをお伺いいたします。

○議長（万賀幸雄君） 鎌田産業振興課長。

○産業振興課長（鎌田利宏君） 再質問について御答弁申し上げます。

有田箕島漁業協同組合が主体となり整備していく産直施設の内容として検討されていますのは、漁業を初めとする地域産業の活性化を目指し、箕島漁港で水揚げされる水産物や有田市で生産される農産物、有田市の特産品などを中心に販売していく有田の産品を扱う物販施設や飲食施設、またトイレ施設やイベントスペース、有田市の地域資源の魅力などを発信していく機能を持たせた内容で、関係者間で協議検討が進められているところです。

次に、恵比須神社から、有田箕島漁業協同組合事務所間の雑木の件でございますが、平成31年度事業で、箕島漁港施設内の美化整備として、樹木伐採を予定してございます。このような漁港施設内の環境整備も含め、産直施設の開設に向け、有田市の魅力的な地域資源を磨き、つなぎ合わせて相乗効果が生じる仕組みをつくり上げ、市民参加主導による地域活性化に向けた取り組みとしていくことで、市民が誇れる魅力的な拠点となるよう、有田箕島漁協とともに取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（万賀幸雄君） 6番児嶋清秋君。

〔6番 児嶋清秋君 登壇〕

○6番（児嶋清秋君） 鎌田課長、御答弁ありがとうございます。

箕島漁港で水揚げされる水産物や、また、農産物、市内の特産品なども販売していくということです。また、樹木の伐採も予定しているとのことですので安心していただきました。

このプロジェクトは、総事業費として14億円の大きな事業であります。これから、さらに詳細を詰めなければならないことが多々あると思いますので、関係者間での十分な協議をよろしくお願いいたします。

以上で、荷さばき施設及び産直市場についての質問を終わらせていただきます。

先ほど平成31年度当初予算のモテるまち有田市づくりについてを大松課長から答弁いただきました。

1点目は、わかやま空き家バンクに登録した市内全地区の空き家が対象であるとのことですが、成功例として、移住施策を積極的に行っているところは、移住者に対する受け入れ協議会などが存在し、移住者への対応や相談に応じる体制が整っていると聞きます。しかしながら、有田市内では、まだ移住者への体制が整備されていないように思います。

市では、これまで矢櫃地区で移住施策を取り組まれており、同地区には協議会も存在すると聞きます。そうしたことを考えますと、私は、今回の補助制度は、まずは矢櫃地区において取り組まれることが望ましいのではないかと考えますが、当局の考えをお伺いいたします。

○議長（万賀幸雄君） 大松経営企画課長。

○経営企画課長（大松満至君） 再質問に御答弁申し上げます。

議員御指摘のとおり、移住施策では、移住者の受け入れる体制の整備は大切でございます。確かに市がこれまで移住施策を取り組んできたのは矢櫃地区でありまして、地区には協議会も存在しております。

また、他の地区と比較すると、空き家率も高い地域でございます。しかしながら、平成27年度に実施いたしま市内の空き家実態調査では、矢櫃地区も含めました市内に約1,000件の空き家が確認されております。このため、今回、市の全域をカバーする補助制度とすることによりまして、対象物件の幅が広がるとともに、移住希望者の選択肢を広げることにもつながると考えております。

懸念されております移住者の受け入れ体制につきましては、市のほうでワンストップパーソンを配置し、全市域について移住希望者を応援する体制は整えておりますので、問題はないものと考えております。

以上でございます。

○議長（万賀幸雄君） 6番児嶋清秋君。

〔6番 児嶋清秋君 登壇〕

○6番（児嶋清秋君） 大松課長、答弁ありがとうございます。

移住者の受け入れ体制については、人員を配置するので心配は要らないということなので、課長の答弁を信じておきます。

さて、壇上でも申し上げましたが、移住交流拠点施設くらしちやる矢櫃と利用し、矢櫃地区の協議会の皆様が中心になって、箕島高校の生徒さんの協力を得ながら、今年の平成30年12月16日に箕高カフェが催されました。私も参加をしたのですが、大変盛況であったと記憶しております。

答弁のとおり、交流人口は大幅に増加しているものの、移住定住にはつながっていないのが現状だと、大松課長も認められておると思います。私もそのように思います。

政府のほうは、2015年から地方創生に取り組んでおりますが、これは、ふるさと回帰支援センターの調査なんですけど、移住先で希望する就農形態は、1次産業である農業に憧れを持っておられる方が多いそうです。有田市でも、農業の後継者不足が顕在化している中で、来年度から就農支援事業を強化していくとのことですので、この支援事業が移住定住につながっていくことを期待しておきます。

以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（万賀幸雄君） これにて、6番児嶋清秋君の一般質問は終わりました。

一般質問の途中ですが、この際、昼食のため午後1時まで休憩いたします。

午前11時52分 休憩

午後 1時00分 再開

○議長（万賀幸雄君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

9番辻本意典君。

〔9番 辻本意典君 登壇〕

○9番（辻本意典君） 9番辻本です。

今日は、私の質問は、資料はありません。何言うかわかりませんので、その辺のことをよろしくをお願いします。

まず、都市下水について。その1、初島町里地区の都市下水について質問します。2つ目は、箕島地区のコーナンの裏側の都市下水について、お話をさせていただきたいと思しますので、よろしくをお願いします。

壇上は、これで終わります。

○議長（万賀幸雄君） 辻本議員、質問事項、初島町里地区、それから箕島地区市道834号という通告はありますけれども、その何について聞くか、少しだけ。

○9番（辻本意典君） 何て。

○議長（万賀幸雄君） 質問の内容について、少しお話いただけないと、当局も答弁のしようがございませんので。

○9番（辻本意典君） 今から質問するんです。

○議長（万賀幸雄君） 発言席でやるんですね。

○9番（辻本意典君） 当たり前。

○議長（万賀幸雄君） どうぞ。辻本意典君。

○9番（辻本意典君） まず一つに、市長に一つ、このたび、初島里地区の都市下水の処理場について、2,500万の予算をつけていただき、本当にありがとうございます。市から初めて予算をつけていただきました。本当にその辺はうれしく思います。

実は、初島町里地区は、雨が降れば必ず浸かる。今では、床上浸水はなくなったと思いますが、昔は、床上浸水はいっぱいあったんです。私たちの住む初島町里地区の北原は、北筋と上筋とありまして、上筋は石垣が真裏にぶら下がり、北筋は、雨が降ると必ず浸かる家ばかりです。

そんなことで、本当に大変な、私たちの住む北原地区の実態を皆さん、何にも知らんと思います。こんなこと、当時の初島町役場になんぼ言っても聞いてくれません。また、海草県事務所に行っても聞いてくれません。地域の皆さん方に御寄附をいただいて、我々役員だけで東京へ行こうということで、何にも知らん東京へ1泊2日で行きました。行くなら、発言できるだけの内容のものをこしらえて行こうということで、本当に雨水に浸かった高齢者の姿、胸まで浸かって子供が帰りが遅い、歩いている姿を写真撮ったり、また、山崩れはいつ起こるかわからん、崖下の大きな岩がいつ落ちてくるかわからんところを写真撮ったり、いろいろとそういうのを持って、とにかく東京へ行きました。

東京で、どこ行ったらいいかわからんと思っただけけれども、建設省がある。建設省の建設課長にお目にかかって、私たちの実態を言ったわけです。山の上は、崖下対策で、いつ崩壊するかわからない、下はしょっちゅう浸かって大変なことになるんやと。特に大変だったことは、雨が降って大水来たら、北筋の人は必ず床上浸水。ちょうど潮が引いていく夕方になったら、一番、僕が記憶にあるのが、汲み取り式のトイレに水いっぱい溜まっているから、それを流しているんですね。それが、何とも言えんにおいで、上のほうから流れてくる。また、うちの人らがそれをくんで流す。夕方来たらこのにおいが鼻についてもう、夕飯食べられないんですよ。それくらい強烈なにおいがした。そういうところも建設省行って、話を聞いていただきました。

それから、帰ってきて何ヶ月かするうちに、返事をいただきました。地上げしますと。後ろの石垣の危険な地域を全部前へ出して、床をもっと上げようということで、国がやってくれました。国の費用で。

それで今の状態があるんですが、それをしてもらってから50年、いまだに水が一緒です。皆さん方、初島の国道が通行どめになっているということを知っていますか。皆さん知っていますか、初島の国道が何回も通行どめになるんです。というのは、車が通るたびに波が起こって、家の中に入ってくるんです。それが床上浸水来たり、あるいは商売をやっている人は商品がぬれたりするんで、お願いして通行どめにするんです。二度三度、初島というところは、通行どめあるんです。

そんな実態の初島町を、このたび、有田市の市長として、ついに2,500万の予算を提示してくれました。この予算の使い道について、どうやってやっていくんか、建設課長にちょっとぜひ、お聞かせ願いたいと思います。

○議長（万賀幸雄君） 脇村建設課長。

○建設課長（脇村哲弘君） 御答弁申し上げます。

初島の都市下水路についてですけれども、今現在、JRから、国道42号の交差点付近まで、エッソのガソリンスタンドのところですけども、そこまでは完成しております。その後、弓場池の下のほうから、里、沖地区に向かって、残り1,400メートルを工事していく予定になっております。

以上です。

○議長（万賀幸雄君） 9番辻本意典君。

〔9番 辻本意典君 登壇〕

○9番（辻本意典君） 要するに、国道までは排水が引かれているんですね。エッソのスタンドのところから、何にもされていないということですか。

それから、上向いて、下向いていくんか知らんけども、排水工事をやっていくと。今回の2,500万というのは、どのくらいできるのか、何メートルぐらい。進捗率とか、また、何メートルぐらい完成するのか。

○議長（万賀幸雄君） 脇村建設課長。

○建設課長（脇村哲弘君） 約100メートル弱を予定しております。

以上です。

○議長（万賀幸雄君） 9番辻本意典君。

〔9番 辻本意典君 登壇〕

○9番（辻本意典君） 2,500万の費用で100メートルということは、それから池まで何メートルあるんですか。池まで。

○議長（万賀幸雄君） 脇村建設課長。

○建設課長（脇村哲弘君） 1,400メートルございます。

以上です。

○議長（万賀幸雄君） 9番辻本意典君。

〔9番 辻本意典君 登壇〕

○9番（辻本意典君） このたびの予算で、100メートル完成してくれるということであるので、あと1,300メートルについては、13年かかるということですか。いかがですか。

○議長（万賀幸雄君） 辻本議員、答弁もらうときは座ってください。脇村建設課長。

○建設課長（脇村哲弘君） 単純に1,300メートルを13年ということではなくて、毎年毎年の事業費のベースがございまして、13年もかからないとは思っております。

以上です。

○議長（万賀幸雄君） 9番辻本意典君。

〔9番 辻本意典君 登壇〕

○9番（辻本意典君） この話は難しいけれども、3,500万のときもある、また2,500万のときもあるということはあると思いますが、できるだけ早く、これを完成させんなら、初島の排水は完成しません。ひとつ、ぜひよろしくをお願いします。

それともう一つ、今初島の排水は潮が満ちてくる間は絶対に動かないんです。海からの潮が満ちてきている間は絶対に引かない。潮が引きだしてきたらだんだん引いてくるんです。大体、潮、満ちたり引いたりするんやけども、この時間帯というのは何回ぐらい、日に2回ぐらいあるんか。ひとつ、ぜひお願いしたいんやけども、これは箕島の排水と関係するんですが、箕島のコーナンの裏、十五、六軒ある、今の話と絡みますが、実は、私の友達が、洋服屋やっています。この間の浸水で、200万ぐらいの商品をずぶぬれにしました。ちょっと聞いてきたら、床上浸水は1万5,000円、市からの見舞金が出るらしいですね。県から5,000円、要するに、2万円の見舞金が出るということを知っています。床下から1銭

も出ない。半壊は3万円と5,000円の見舞金が出ると。全壊は5万円と1万円の見舞金が出るということを知っていますか。

○議長（万賀幸雄君） 答弁、どちらが。上田防災安全課長。

○防災安全課長（上田敏寛君） 今の辻本議員の御質問にお答えいたします。

今、議員おっしゃられた額を市のほうでは補助するようになってございます。

以上でございます。

○議長（万賀幸雄君） 9番辻本意典君。

〔9番 辻本意典君 登壇〕

○9番（辻本意典君） 有田市の床上浸水には、必ず県が5,000円と市が1万5,000円あげてくれていますか。支払っていますか。

○議長（万賀幸雄君） 宮崎市民福祉部長。

○市民福祉部長（宮崎三穂子君） お答えします。

住家の場合に——現に居住する家屋の場合でございます——、先ほど申し上げました、床上浸水1世帯につき1万5,000円、県から5,000円を災害見舞金として支給しております。

以上でございます。

○議長（万賀幸雄君） 9番辻本意典君。

〔9番 辻本意典君 登壇〕

○9番（辻本意典君） ありがとうございます。

それはそれで、支払っているということを知って安心いたしました。というのは、今、箕島のオークワの裏、あるいはコーナンの裏の浸水対策について、被害届があると思いますが、これにちょっとお聞きしますけども、このコーナンの横の方、この人の床上浸水、床下浸水のときに補償しましたか。

○議長（万賀幸雄君） 上田防災安全課長。

○防災安全課長（上田敏寛君） ただいまの質問に御答弁いたします。

平成29年10月22日、台風21号の接近に伴う水害の浸水におきましては、今、議員御指摘の件については、見舞金、支払ってございます。

以上でございます。

○議長（万賀幸雄君） 9番辻本意典君。

〔9番 辻本意典君 登壇〕

○9番（辻本意典君） ありがとうございます。

先日、このコーナンの裏の人たちの被害状況、私は何回もあそこを通過して、つくづく思ったんですが、大変な被害状況だったですよ。家財道具は全て放り出し、本当に大変な水害であったんです。

こんなこと、たびたび起こっているのに、何にもしないというのは有田市はどうかしていますよ。どうしたら、これは水害がなくせるようにできるんですかということの有田市は一個もわかっていない。

初島の水害にしたって、ようやく予算つけてくれて、見通しがついてきたけども、これもこれで、果たして水害がなくなるかと、そんなことは絶対僕はわからないと思うんです。

ほんまにこの人ら、気の毒だったんですよ。僕、何回も通るうち、あんないい棚捨てる

んかいとびっくりしたんです。一応出してるだけで掃除してんのかいなと思ったけど結局全部捨てました。どこの家もここの家も。そのくらい、みんな、この水によって苦労しているわけです。この呉服店だったら、200万の商品が、水にぬれて、補償はしてくれなんだという話です。川嶋内科でも、豊まで水に浸かったというニュース、聞きます。

これは、解決する方法が一つあるんです。それは何かって言ったら、今、三菱の前に、潮が満ちてきたら排水をポンプで吸うてるところがあるんです。そこは今、2つのポンプがあるんですけども、もう1台据えたら、初島も箕島の人も排水を床上浸水までくるとないと思うんです。それすらできない有田市の実態。これ、どうする気なんですか。このまま放置するんですか。皆さん、何をかんがえているんですか。有田市の実態を知っているんでしょ。初島も、もしかしたら、松源の裏通って、あの河川につながっちゃうかわからん。そのポンプアップ一個で、初島も浸水せんかもわからん。何の手も打とうとせん有田市の実態に私はあきれ返るばかりです。一体どうする気なんや、その計画ないんかい、建設部。部長、どうなん。

○議長（万賀幸雄君） 河野経済建設部長。

○経済建設部長（河野孝司君） 御答弁申し上げます。

箕島地区についてでございますが、本路線も、雨による影響の道路冠水が発生する場所でございます。内水調査の結果、瀬戸川の流下能力不足と判断されたことにより、箕島ポンプ場に1基のポンプを増設するための準備を行っているところでございます。

来年度以降は、国の補助対象事業となるよう、下水道施設の台帳を整備し、今後の維持管理計画を策定するストックマネジメントの作成費として5,800万円の予算を計上させていただいており、少しでも早く、ポンプ増設ができるよう努めてまいりますので、御理解のほど、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○議長（万賀幸雄君） 9番辻本意典君。

〔9番 辻本意典君 登壇〕

○9番（辻本意典君） ただいま、建設部長から800万の予算をつけたと。その800万やったら開設するんですか。

○議長（万賀幸雄君） 河野経済建設部長。

○経済建設部長（河野孝司君） 予算の計上は5,800万円ですけども、5,800万円はストックマネジメントの作成費用です。

以上でございます。

○議長（万賀幸雄君） 9番辻本意典君。

〔9番 辻本意典君 登壇〕

○9番（辻本意典君） 部長、とりあえず、それを早急につけていただきたい。それはどんな効果をあらわしてくるか、これからはそれ次第ですね。

これは、ほんまに有田市というのは、水浸しで大変なところですよ。はっきり言って、こんなしょっちゅう水浸しになる町が発展するわけがありません。私は吉備によく行きますが、吉備はそんなことは一軒もありません。あそこは不思議な町です。有田市だけです。どこの家のここの家もこんなに水浸しになって。表にタンスを出したり、あるいは洗った

り、この冷蔵庫、大きいですよ、モーターが浸かったらもう一発であかんのよ。下にモーターがついているし、浸かりやすいんですよ。どこの家庭でも一番先は冷蔵庫です。この冷蔵庫1台、市は補助金、やってくれているんですか。ないでしょう。

ほんまに、そしたらもうちょっと、市の水全体のことを、もっと真剣に考えて、どこでどうしたらいいんだということすら今まで検討していないという証拠やないか。何にもしていないやないか。ほかの町はこんなちやうで。もっともって市民のためにしてるはずや。今後、ひとつ、ぜひ、有田市の雨水対策に真剣にもっと考えていただきたい。また、予算も立てていただきたい。くれぐれも、ひとつ、よろしくお願ひしたいと思ひます。

市長、よろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

私の発言はこれで終わります。

○議長（万賀幸雄君） 辻本議員、市長からいいですか。もし、聞くのであれば、ちょっと座ってください。望月市長。

○市長（望月良男君） 熱い思いをいただきまして、ありがとうございます。

特に、初島と箕島の雨水、内水対策ですね、初島においては、昭和50年から事業を開始して、1号、2号、3号、4号、歴史を感じます。箕島においては、昭和42年に事業を開始して、1号から7号、そしてポンプ、これは、昭和55年、61年に1基、2基が完成した。それらが老朽化したり、また、短時間に降る雨量の気候の変動であったり、または、宅地化、コンクリート化であったり、内水に対する対策の手法というものが、やはり変化してきていると思ひます。

したがいまして、私たちは調査をし、どんな打ち手があるか、もちろん、限られた財源といひますか、そんなバランス感覚も必要です。ただ、命のかかわることであったり、そういう大切なことであるといひことは、きちっと認識した上で、これまで、できることは何かといひことで進めてまいりました。

そんな歴史のある、この内水対策を、一つの変化のときと捉えまして、完成していない2号幹線ですね、これも、13年もかけずに必ずもっと早い、短縮したことで完成をさせたいと思ひますし、箕島においても、現在のポンプも老朽化してきているといひこともあります。ただ、やはり水は高いところから低いところへ流れる、低いところ同士の水をどう、海の水が高くなる台風時期に人間の力といひますか、人工的な力といひのは、時には自然の猛威に無力になることでもありますけども、でも、あきらめることなく最善を尽くしてやるように。そして今、しっかり計画を立てているストックマネジメントですね、莫大な費用がかかるもんですから、国の支援をしっかりと受けていくためには、しっかりとした計画をつくって、計画に乗せて補助金をいただいて、計画的につくっていくといひことで、33年、34年にポンプ製作、設置、これに向けて肅々と進めてまいりたいなといひふうに入っています。

以上です。

〔9番 辻本意典君 登壇〕

○9番（辻本意典君） ありがとうございます。

とにかく、一つだけ言わせてもろうたら、初島でも箕島でもそうやけども、潮の満ち引きによつて、ものすごく変わるんです。これを、潮が満ちてくるとき、遮断できるように

できんのかの。今、箕島のポンプ場はそうになっている。初島には、それが1個もないんよ。それで、ポンプアップでかすってくれたら一番いいんやけど、あんなんなれへんのやけど。その辺も十分考えてください。

ありがとうございます。これで終わります。

○議長（万賀幸雄君） これにて、9番辻本意典君の一般質問は終わりました。

以上で、通告による一般質問は終了いたしました。

これにて一般質問を終結いたします。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

次に、お諮りいたします。

明19日も、会議を開く予定でありましたが、明19日から21日の3日間は、議事の都合により休会といたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（万賀幸雄君） 御異議なしと認めます。よって、明19日から21日の3日間は、議事の都合により休会とすることに決しました。

次会は、来る22日午前10時から議案審議等のため会議を開くことを申し添え、本日はこれにて散会いたします。

午後1時28分 散会